調査視察報告書

令和 7年 8月25日

会 派 名 江南新風クラブ
会派代表者 伊藤 吉弘

参加者：東猴史紘

行政視察の結果について、次のとおり報告します。

年月日	令和7年8月13日（水）
視察時間	9：30～11：30
視察場所	高雄放課後児童クラブ館、柏森放課後児童クラブ館
視察内容	放課後児童クラブについて
■目的 市内の保護者より、「学童待機児童ゼロ」を実現している扶桑町の学童（柏森小学校・高雄小学校）を視察してほしいとの要望を受け、現地を視察する。	
■内容 ○放課後児童クラブについて ○放課後児童クラブ館建設費用について ○学童保育所の現状について （1）待機児童数 （2）支援員確保策 （3）学童保育所の環境	
■所感 江南市の学童における待機児童の主な原因は、「支援員不足」と「施設不足」の二点である。 支援員については、扶桑町も江南市と同様に派遣会社を通じて人材を確保しているが、人材の確保には苦労しているのが実情である。 人材の確保の改善策としては、一社に依存している派遣会社を複数社に広げるとともに、待遇改善を進める必要がある。 特に、待遇面に関しては、扶桑町の支援員の一人が「もともと江南市の学童で働いていたが、途中から資格の有無にかかわらず同じ待遇となり、資格を持つ者にとって不満が大きく、他の人たちとともに辞めた」と述べており、資格の有無に応じた処遇改善は不可欠であると感じた。 次に施設面について、柏森小学校は二階建ての学童施設であり、高雄小学校も部屋数や広さがあり、先週、江南市で視察した布袋小学校と比べても数倍に感じられる規模であった。	

こうした施設の充実こそが、扶桑町において待機児童がゼロである理由の一つであると考えられる。

一方で江南市では、用地取得や新たな学童施設の建設には財政的制約が大きく、現実的には空き部屋、空き教室の活用が望ましいと考える。

なお、空き部屋、空き教室以外を利用する場合、日々使用している教室などを利用する場合には、児童による不適切な行為が発生するリスクが高く、学校側の管理負担が大きくなることが大きな課題となるが、建設などによる施設確保が困難な中で、待機児童をゼロとするためには、空き部屋などの活用も検討するように要請する必要がある。

最後に昼食の提供に関して、扶桑町ではすべての学童で実施されているのに対し、江南市では一つの学童保育所のみを導入にとどまっているが、これは、江南市が扶桑町と同じ事業者により昼食の提供が受けられるようにしていることから、この事業者の供給能力の限界に達しているものであると考える。

そのため、今後、江南市が全ての学童保育所で昼食提供の導入を目指すためには、既存業者との調整に加えて、新たな業者のリサーチ、複数業者との契約交渉を行うように要請する必要がある。